

保護者のみなさまへ

子どもの教育で不安なことや子どもが困っていることがあれば、学校と相談し、子どもの教育のために学校と協力して取り組む（協働する）ことで、子どもの困っていることや不安を軽減することにつながります。



子どもの教育について不安に思うことや、実際に子どもが悩んだり困ったりしているような様子があれば、まず、子どもから学校での様子を詳しく聞き取ることや、学校での子どもの様子等について、担任や特別支援教育コーディネーター等と相談することが重要になります。

特別支援教育は
学校全体で行っています

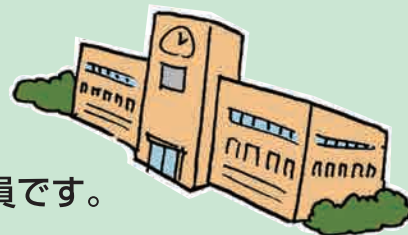


「校長」

- ・ 特別支援教育の責任者として、リーダーシップを発揮しつつ、校内の教育支援体制の整備を行っています。

「特別支援教育コーディネーター」

- ・ 特別支援教育についてのコーディネート役を担う教員です。
- ・ 他の教員や関係機関との連絡、調整を行っています。
- ・ 保護者からの特別支援教育に関する相談窓口となります。



「各学級担任」

- ・ 学習面や行動面において困難を抱えている子どもが周囲の子どもと共に学ぶための工夫を行っています。

学校と保護者が協働して子どもを育てていくために必要なことは、日常的に学校と家庭で連絡し合い、情報を交換することです。保護者と学校と一緒に子どもについての理解を深めていける関係を作ることが大切です。

学校側と保護者側の教育的ニーズを整理した上で、その他の関係機関ともニーズや連携内容を整理することで、一貫した支援を行うことができます。

そのために活用されるのが、「個別の教育支援計画」です。

個別の教育支援計画とは？

学習面や行動面において困難を抱えている子どもの一人一人の教育的ニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えの下、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な支援を行うことを目的として作成する書類です。

誰が作成するの？

各学校が中心となって作成します。



保護者ができることは？

学校生活だけでなく、家庭生活や地域での生活も含め、長期的な視点に立って幼児期から学校卒業後までの一貫した支援を行うことが重要であり、その際、家庭や医療、保健、福祉、労働等の関係機関の連携が必要です。

そのため、作成に当たっては、保護者の参画が求められています。

個別の教育支援計画の作成と活用の流れ

